COVID-19感染拡大に伴う登園自粛期間中の幼児の家庭内音楽活動

河野　久寿・内田　　雄

（2022年3月1日受理）

Home music activities for infants during the period when they are refraining from going to kindergarten due to the spread of COVID-19 infection

Hisatoshi Kawano・Yu Uchida

要旨：本研究はCOVID-19感染拡大に伴う自粛期間中の各種音楽活動調査を実施した。
家庭内での音楽活動は歌う活動が最も多かった（78.2%）。歌を伴う手遊び、音の出るおもちゃ、楽器の演奏はいずれも半数以上（50.4% ~57.1%）の幼児が実施していた。音楽ゲームでの活動は10%程度と低い実施率であった。
家庭での音楽活動（歌、手遊び、おもちゃ、楽器、ゲーム）の実施が全てなかった幼児は12%であった。

Key words：幼児（Young children）　音楽活動（Music activity）　アンケート調査（Questionnaire survey）

1．はじめに

COVID-19の世界的な蔓延は人間活動に様々な影響を与えた。それは幼児においても例外ではなく、登園自粛の結果、大事な成長過程での園活動が行えないことは、幼児の成長において様々な影響を危惧するものである。当然自粛期間中は家庭内にて過ごすほか無く、家庭での過ごし方が成長にとって大事になる。

幼少期において音楽の果たす役割は大きいが、音楽の機能について、白石昌子（2006）は次の4点に集約している。①音楽は組織化された時間を作り出す②音楽は人の心に働きかける③音楽は身体に関わる④音楽はコミュニケーションの方法にもなる[1]。②③のように音楽は、人間の体の色々なものに共鳴して情動や身体の動きを促すものであり、④のように、人間社会に必要な人との繋がり・コミュニケーションツールとしての役割を果たすもので、特に言語が発達していない幼児期において音楽の果たす役割は大きい。

音楽が幼児にもたらすメリットの研究結果は多く挙げられているが、その一つに挙げられるのが言語能力の促進である。米科学アカデミー紀要論文による最新の研究結果として、「赤ちゃんの遊びに音楽の要素を取り入れることは言語能力習得の一助となる可能性があり、早い時期に音楽的な体験を取り入れると、認知能力により広範囲な影響を与える可能性があることを意味している」[2]としている。音楽の早期教育についての提唱者であるハンガリーの音楽教育者コダーイ（1882-1967）においては、「音楽教育は生まれる9ヶ月前から始めよ」と所謂お腹の中にいるときから既に始まっている[3]と説くなど、音楽が幼児の成長に大きな影響を与えることは周知の事実であろう。

園生活において幼児は様々な音楽活動を実施している。例えば、先生が歌った歌やCDなどの音楽を聴く、わらべうたや季節の歌を歌う、手遊び、簡単な打楽器・鍵盤楽器を鳴らして音を楽しむ、合奏・合唱する、音楽を聴いて体を動かすなどが挙げられる。

より音楽に携わる時間を増やすためには、その音楽活動の他に自宅での日常における音楽活動は必要であり、家庭における音楽活動を挙げると、知っている歌を歌う、テレビの音楽教育番組を視聴する、CDやYouTube動画で好きな曲を聴く、ピアノやキーボードなどの楽器を弾く、スマホ音楽アプリで遊ぶ、音の出るおもちゃで遊ぶ、音楽に合わせて踊るなどが考えられる。特に現代における幼児の音楽活動の特徴としては、音の出るおもちゃやスマートフォンに関するアプリまたは動画、ゲームなど現代ならではのツールを使用したものが挙げられる。家庭における活動の中では一定の機会で使われていることも調査の結果分かっている[4)]。

家庭での音楽活動は個人差が大きく、幼児期から小学1年生の家庭教育調査報告書（ベネッセ, 2013）によると、幼児は年齢を重ねるにつれ楽器演奏の習い事をする割合が高くなり[5)]、河野・内田（2021）の調査でも結果が得られている[4)]。

以上のように、幼少期には園と家庭の両方で音楽活動が実施されているが、COVID-19感染拡大期間においては園での音楽活動に触れる機会が当然減るが、家庭での音楽活動には個人差が大きく、幼児の音楽経験にも格差が生じると推測される。

今回の調査対象の北陸地方の幼稚園では、自粛期間中に家庭内で実施できる各種活動が記されたお便りを配布し、園活動の代わりとなる様配慮がなされていたが、その実施率にも家庭間差はあると推測される。

本研究の目的は、COVID-19感染拡大に伴う登園自粛期間中の家庭内音楽活動の状況、および幼稚園が提供した活動の実施状況を明らかにする。

２．方　法

本研究では北陸地方の幼稚園1園を対象として、COVID-19感染拡大に伴う自粛期間中の各種音楽活動調査を実施した。調査は2020年5月下旬に実施された。

（１）調査対象者

163名の園児の保護者を対象に自宅における音楽活動調査を実施した。本調査の目的、実施方法等に関しては書面にて説明し、参加に同意を得られた調査対象者133名から回答を得た（回収率81.6%）。本調査は無記名式で実施された。

（２）調査内容

調査対象の幼稚園では、自粛期間中に家庭内で実施できる各種活動が記されたお便りを配布している。その中には「ちゅうりっぷ」「てあらいのうた」「いちごをつみに」「こいのぼり」「おかあさん」「はをみがきましょう」といった6種類の歌を歌う活動（以下、幼稚園提供活動）が含まれていた。今回は上記の6種類の歌を家庭で歌ったか、幼稚園提供活動に関する感想（自由記述）に関しても併せて調査した。

（３）解析方法

家庭内での音楽活動の実施状況に関する各項目（全5項目）に関して、活動の実施有無を集計し、各種音楽活動の実施率を算出した。また幼稚園提供活動に関して、各種活動（全6項目）の実施数を算出し、幼稚園提供活動の実施数と家庭内での各種音楽活動の有無に関して、全体および性・年齢別にクロス集計した。

３．結　果

図1は、各種音楽活動の実施率を示している。家庭内での音楽活動は歌う活動が最も多かった（78.2%）。歌を伴う手遊び、音の出るおもちゃ、楽器の演奏はいずれも半数以上（50.4％～57.1%）の幼児が実施していた。音楽ゲームでの活動は10％程度と低い実施率であった。家庭での音楽活動（歌、手遊び、おもちゃ、楽器、ゲーム）の実施が全て無かった幼児は12％であった。

幼稚園提供活動に関して、「ちゅうりっぷ」（90.1%）、および「こいのぼり」（82.7%）は非常に高い実施率を示した。また、「てあらいのうた」（55.6%）、および「おかあさん」（53.4%）は約半数が実施し、「いちごをつみに」（30.8％）、および「はみがきしましょう」（27.3%）は3割程度の実施率であった。各幼児における幼稚園提供活動の実施数は平均して3.4個であった。

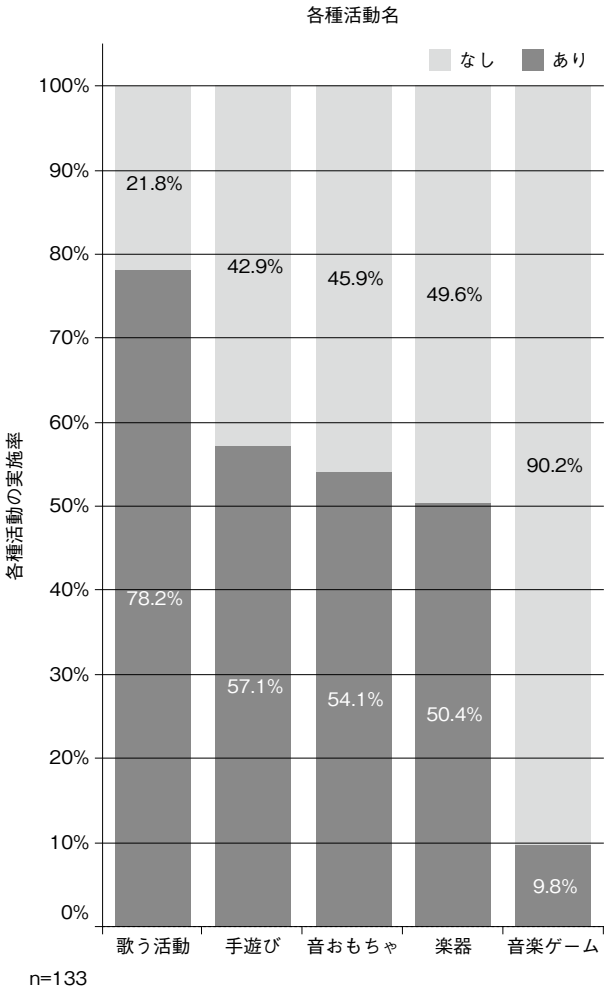


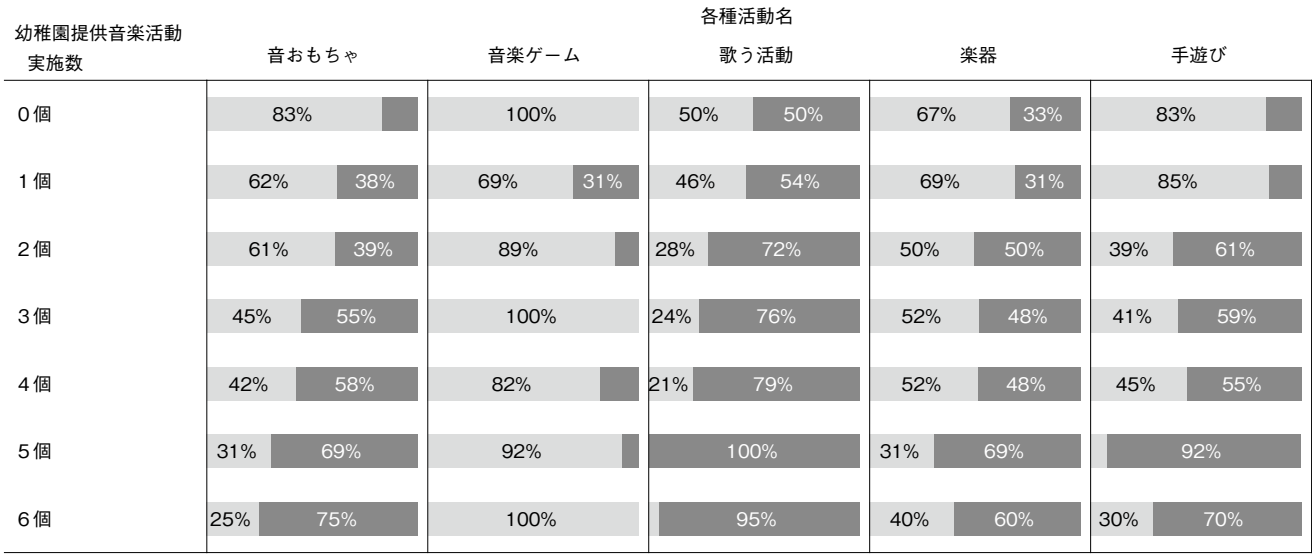
図1　各種音楽活動の実施率

各種活動名　なし　あり

性別	幼稚園提供音楽活動実施数	音おもちゃ	音楽ゲーム	歌う活動	楽器	手遊び
女	0～2個	80%	87%	47% 53%	67% 33%	73% 27%
	3～4個	46% 54%	89%	80%	43% 57%	37% 63%
	5～6個	81%	95%	95%	33% 67%	24% 76%
男	0～2個	55% 45%	82%	32% 68%	55% 45%	55% 45%
	3～4個	41% 59%	93%	26% 74%	63% 37%	52% 48%
	5～6個	42% 58%	100%	100%	42% 58%	83%

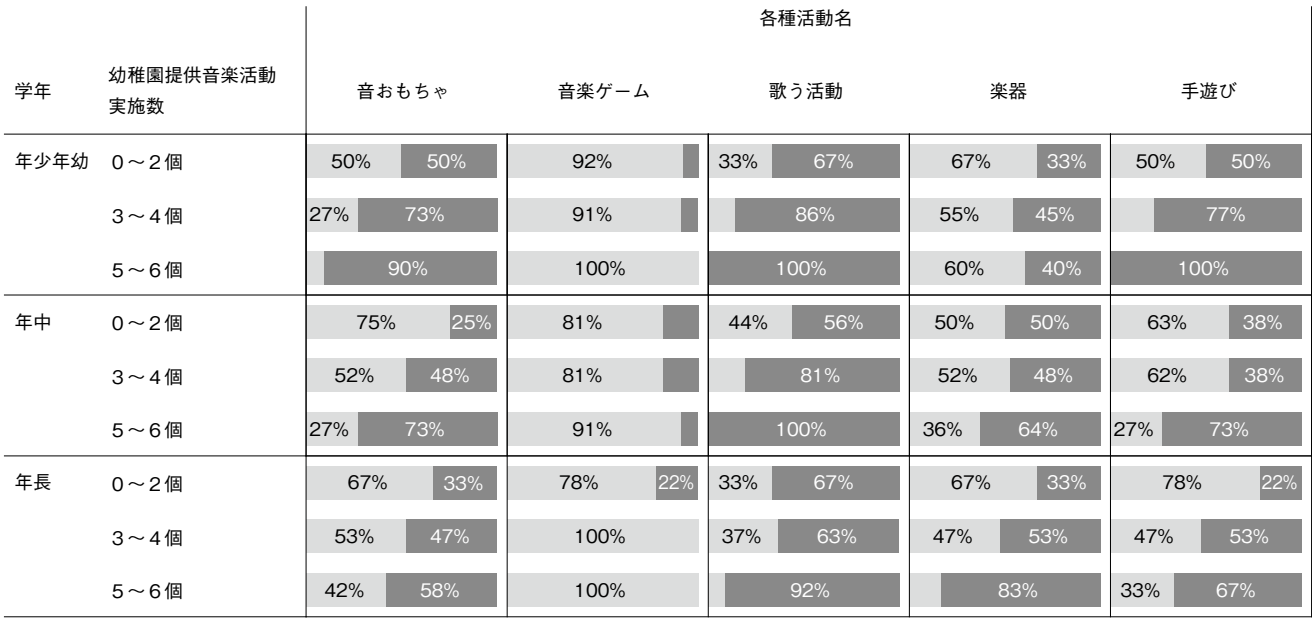
※　性別および幼稚園提供活動の実施数により分類した6群における各種音楽活動をどの程度実施していたかの比率
各群の対象者数は、男児（0～2個：n=22，3～4個：n=27，5～6個：n=12），女児（0～2個：n=15，3～4個：n=35，5～6個：n=21）である。

図2　幼稚園提供の実施数別　各種音楽活動の実施率



※　幼稚園提供活動の実施数により分けた6群において各種音楽活動をどの程度実施していたかの比率
各群の対象者数は、0個：n=6，1個：n=13，2個：n=18，3個：n=29，4個：n=33，5個：n=13，6個：n=20

図３　性別および幼稚園提供活動実施数別にみた各種音楽活動の実施率



※　学年別および幼稚園提供活動の実施数により分類した9群における各種音楽活動をどの程度実施していたかの比率
各群の対象者数は、年少年幼（0～2個：n=12，3～4個：n=22，5～6個：n=10），年中（0～2個：n=16，3～4個：n=21，5～6個：n=11）），
年長（0～2個：n=9，3～4個：n=19，5～6個：n=12）である。

図４　学年別および幼稚園提供活動実施数別にみた各種音楽活動の実施率

図2は幼稚園提供活動の実施数別の各種家庭内での音楽活動の実施比率を示している。幼稚園提供活動を数多く実施している幼児ほど、家庭内で音の出るおもちゃで遊んだり、歌う活動を実施している率が高い傾向にあった。また、手遊びや楽器演奏においても同様の傾向が見てとれる。

図3および図4は、性・学年別に幼稚園提供活動の実施数と家庭内各種音楽活動の実施有無をクロス集計したものである。性・年齢に関係なく「歌う活動」や「手遊び」は、幼稚園提供活動に参加している数の多い幼児ほど実施している傾向にあった。また、楽器の演奏は年長児において、音の出るおもちゃは女児でも同様の傾向が見られた。

4．考　察

本研究はCOVID-19感染拡大に伴う自粛期間中の各種音楽活動調査を実施し、その実態を明らかにするものである。家庭内での音楽活動は歌う活動が最も多く(78.2%)、歌を伴う手遊び、音の出るおもちゃ、楽器の演奏はいずれも半数以上（50.4％～57.1%）の幼児が実施しており、歌や手遊び、楽器の演奏は家庭でもかなりの割合にて実施されていることが分かった。一方、音楽ゲームでの活動は10％程度と低い実施率であった。また家庭での音楽活動（歌、手遊び、おもちゃ、楽器、ゲーム）の実施が全てなかった幼児は12％だった。音楽活動未実施の家庭が1割程度存在することには様々な理由があるのだろう。

このことについては今後調査を必要とするが、理由の一つとして家庭環境・保護者の音楽活動に対する考え・保護者の音楽経験・好きかどうかが関係することが考えられる。幼稚園提供活動に関して設けた自由記述欄から「知っている歌は歌えるが、知らない歌は歌えない。楽譜がついていると良かった。」「馴染みのない歌に関しては子どもに伝えられませんでした。」「”いちごをつみに”はYouTubeで確認しないと分かりにくかった。」「親が知らない歌（調べる手段はいくらでもありましたが・・）は歌わずに終わってしまいました。」などの自由記述が得られた。保護者がその歌を知っているか否かが実施率の高低につながっていることが推察される。これらは保護者の音楽に対する意識や知識、経験が子どもの音楽活動の実施に繋がる例の一つであろう。いずれにせよ家庭内での音楽活動をほとんど実施しない家庭は1割強程度存在し、それらの家庭の子どもの音楽経験には、幼稚園での様々な音楽活動が大きな役割を果たすことになると考えられる。

また、幼稚園提供活動に対するその他意見として、「お便りがあることで、幼稚園のことが思い出され、つながりを感じられました。子どもも嬉しそうに歌っており、ありがたかったです。」「一緒に歌うことを忘れがちだったので、改めてこういう機会が出来てありがたかった。」「日常の中で童謡を歌う機会がないのできっかけになりました。」「“てあらいのうた”は子どもも楽しみながら手洗いの大切さを学ぶことができた。」「歌だけでなく、それにまつわるお話も書かれてあったので、子供にわかりやすく伝えることが出来ました。」「家で子供と一緒に歌を歌う機会があまりなかったのでいい機会になりました。可愛い絵と手書きの歌詞で、温かみがあってすごく良かったです。」など、幼稚園配布のお便りが、園との繋がりや、歌う機会の創出、保護者から子どもへ伝える際の補助、手書きのお便りの効果など、様々な意味で良い結果をもたらすと共に、活用によって家庭内での音楽活動頻度が上がっていることも伺えた。

幼稚園からの提供活動を実施している家庭は音楽活動の実施率も高い結果については、幼稚園からのお便りに対して、まず保護者がどの様に活用するかが大事な部分であろう。

自由記述にて「字が読めないのでお便りは活用しませんでした。」とのコメントした保護者もおり、お便りをそのまま幼児に渡して終わりの家庭も存在するのであろう。家庭環境・保護者の働き方など様々な理由が存在し、それが一概に悪いということでは無いが、例えば楽器を触れる機会を作るかどうか、ピアノや音の出る楽器がある環境があるかどうか、日頃から歌や童謡などを一緒に歌う機会があるかどうかは、やはり家庭での活動における保護者の考え・経験が大きいと言わざるを得ない。

本研究COVID-19感染拡大自粛期間中の各種音楽活動調査からその実態について様々なことが明らかになったが、その期間中における幼稚園からのお便り・音楽活動コンテンツは上記の理由からも意義のあることであった。幼児の家庭での音楽活動機会創出には、その様な工夫や努力が必要であり、今後もその機会創出のために何が必要なのかを探究していきたい。

引用・参考文献

1）白石昌子(2006)乳幼児の発達と音楽の関係―音楽の機能か及ぼす影響についての検討を通して―，人間発達文化学類論集3．13-25

2）Zhao, T. C., & Kuhl, P. K. (2016). Musical intervention enhances infants' neural processing of temporal structure in music and speech. Proceedings of the National Academy of Sciences, 113(19), 5212-5217

3） 中川弘一郎編・訳(1980)「コダーイ・ゾルターンの教育思想と実践～生きた音楽の共有をめざして～」全音楽譜出版社，151
4） 河野久寿・内田雄(2021)幼児の家庭における音楽活動の特徴－性差と年齢差を考慮して－，仁愛女子短期大学研究紀要第53号，pp.41-46
5） ベネッセ次世代育成研究所(2013)「第１回幼児期から小学１年生の家庭教育調査報告書」基本集計表：幼児期版 https://berd.benesse.jp/jisedaiken/research/research_22/pdf/research22-10.pdf（2021年３月１日閲覧）